

## 正 誤 表

「重症筋無力症診療ガイドライン 2014（第1刷）」

下記の箇所に誤りがございました。謹んでお詫びし訂正いたします。

頁	該当箇所	誤	正
3	CQ1-1. MGの病因は何か  「解説・エビデンス」 「2) 筋特異的受容体型チロシンキナーゼ (MuSK) について」 の10～12行目	…cascade として <b>Wnt</b> (Lrp4 を co-receptor とする) -MuSK- <b>IgG4 domain</b> があり, その神経終末側の標的にはシナプス小胞 <b>体</b> active zone 蛋白が推測されている 18). 以上より, MuSK 抗体の病態機序は <b>今も不明のまま</b> である.	…cascade として <b>Lrp4</b> や <b>Wnt</b> (Lrp4 を co-receptor とする) -MuSK- <b>Ig4 domain (CRD)</b> が示唆されており, その神経終末側の標的にはシナプス小胞 <b>や</b> active zone 蛋白が推測されている 18). 以上より, MuSK 抗体の病態機序は <b>多様にして複雑</b> である.
44	CQ4-8. 妊娠・出産における注意点は何か  「推奨」の④	④ MG 治療薬のうち, FDA 基準で使用が可能な薬剤は, ピリドスチグミン臭化物とプレドニゾン (カテゴリーB) およびネオスチグミン, シクロスポリンA, <b>ミコフェノール酸モフェチル</b> , 免疫グロブリン (カテゴリーC) である (グレードC1).	④ MG 治療薬のうち, FDA 基準で使用が可能な薬剤は, ピリドスチグミン臭化物とプレドニゾン (カテゴリーB) およびネオスチグミン, シクロスポリンA, 免疫グロブリン (カテゴリーC), <b>ミコフェノール酸モフェチル (カテゴリーD)</b> である (グレードC1).
85	CQ9-1-2. カルシニューリン阻害薬の副作用にはどのようなものがあるか  「解説・エビデンス」の下から7行目	血中濃度が副作用発現危険域の <b>10 μg/mL</b> を超えることはほとんどないが, …	血中濃度が副作用発現危険域の <b>10ng/mL</b> を超えることはほとんどないが, …

2014年6月3日

株式会社南江堂